

# なのはな

## 輝く春の日差しの中で

NPO法人 なのはな  
◇あおぞらキンダーガーデン  
◇まほろば  
◇わとと・あおぞら  
〒420-0961 静岡市葵区北226-1  
TEL/FAX 054-246-2213  
E-Mail : aozora@shizuoka.tnc.ne.jp  
npa-mahoroba@uv.tnc.ne.jp  
URL : <http://www4.tokai.or.jp/nanohana/>

子どもが、大きくなることを意識しはじめるのは、進入園児を迎える1日入園。小さい子を見て「今の自分」が大きくなる事が分かるのでしょうか。

「こんど〇〇だもん！」と言う大きくなる喜びのエネルギーは、子ども達をキラキラ輝かせます。反対に「そんなことをしていたら〇〇になれないよ」と言えば、子どもの気持ちは沈み、けったり、たいたりするばかりか、心は育たないですね。くれぐれも気をつけましょうね。

先日、1期生のTくんの結婚式がありました。

当時のスタッフを呼んで下さり、懐かしい嬉しい1日となりました。

Tくんのパパは、焼肉やさんで、お店のチラシに「あおぞらキンダーガーデンセットを食べてサイパンにいこう」なんてメニューを作り、あおぞらを全面的に応援してくれていました（今は、亡くなれて残念です）。そのチラシに

「たとえば、ルドルフ・シュタイナーが、言うように、子どもは、両親を選んで、使命を持って生まれてきたと考えるならば、.. あだやおろそかに子育てなどできまい。本来「education」とは「引き出す」という意味である。教えることではなく、子どもの個性を引き出してあげるということだと思う。あおぞらの先生達は、自分自身の個性を命がけで子ども達にぶつけることで、子ども達の個性を引き出すことに成功している。..それは、魂の自由の種を蒔くことであり、同時に子ども達は、平等と友愛の精神をその潜在意識に刷り込んでいるのだと思う。将来子ども達が、自分で自分の事を決めなければならない時が来る時、その魂の自由・平等・友愛の潜在意識が、力強い意思の力となって発露するかもしれない」

あ

あおぞらキンダーガーデンに育てられる会 焼肉おじさん金太郎パパ

と、書かれていました。人生の節目に、自分らしく生きる道を決め、相手を選んだTくんの輝く姿に、パパの言葉を思い出し、幼児教育の大事さを改めて感じる、春にふさわしい素敵なひとときとなりました。

大きくなる事を楽しみにする発達の原動力が、全開すると、今までやらなかった事も“〇〇みたくになりたい”と挑戦したり、逆にコントロールしたり、立ち止まったり（思考する）など…素敵な力が発揮するのですね。この時期、1年前の我が子が振り返る（その手助けに、おたよりやノートも参考にして）のもいいですね。きっと大きく心を育てた我が子が春の輝きの中で、見えてきます。そんなとき『出会えてよかった』『生まれてくれてありがとう』と子育ての喜びを夫婦・家族で語り合ってみましょうね。

きっと心が、あたたかくなるでしょう。

(おか)

# あおぞらだより

2月末、常葉大学短期学部保育課の1年生が3日間実習に来てくれました。  
実習を終え、園にお手紙をいただきました。

3日間は驚くほどあっという間でした。その中で子どもの様々な姿を観ることができました。  
言葉にして気持ちを伝えられず、大好きなのに叩きあいのけんかをする男の子が、あとから私に  
そっとその友達の素敵なところを伝えてくれた姿。

活動のペースはゆっくりでも、ゆっくりなその中には何をするのかをじっと見つめ、最後まで頑  
張るから、一緒にいてねと伝えてくれ、やりきった時に一緒に笑い合った笑顔。

接し、見つめた一つ一つの子どもの姿に、輝かしいその時の心がいっぱい表れていて本当にま  
ぶしかったです。こんな子どもの輝きを見つめられて、その場で一緒に感じ合える保育は素敵な行  
いだと感じました。

子どもの心が揺れたり、悩んでいる時、揺れている、悩んでいるそのままのあなたがとっても素  
敵と語りかけ、寄り添っていらした先生方が、本当に素敵な保育だなと感じ、私もそうあれるよう  
にいつのひかなりたいと、心から思っています。

あおぞらも20周年を迎え、長い歴史の中で形式や建物、人数など様々なところでの変化はありましたが、大事にしている保育は何年たっても変わることなく、守っていかねばいけないと思っています。

厳しいご意見も含め、21周年を迎えるあおぞらを応援して頂けるとうれしいです。

## わとと・あおぞら

### ほっと する布おもちゃ

「今度は何にしようかなあ～」

もうすぐ職場復帰のママが次の布おもちゃ選び。

「布ボールも、にぎにぎ(おなかを押すときゅっとなるどうぶつ人形)もできたし。

なんでもべたべたになめちゃうけど・・・今から使えそうなものは～」

いろいろ悩んで、ぞうのマッシュリングにきーまり。

「ぞうなら、好きだしね。」

月2回の布おもちゃゆっこ・といでは、元保育士でもある先生に教わりながらママ達がちくちく手縫いでおもちゃ作りをしています。

簡単なものだと90分くらい、大作布えほんでは何ヶ月もかけ、世界にひとつだけのわが子へのおもちゃを。子育ての悩みをおしゃべりしながら、時にはアドバイスをもらい。子どもの機嫌がよい時は針が進み、そうではない日は「あーあ、また今度。」

「高校の家庭科以来の縫い物でした。」

「短時間だけど、自分だけの時間が持ててうれしい。」と いろいろな声をききますがこどものことを考えながらのママたちの表情はやさしく、うれしそうなのです。

肌触りがやさしく、こどもにもママにとっても **ほっと** な布おもちゃです。

<かよみ>

## 城東子育て支援センター あんと

1月から、静岡県の子ども未来課からの事業で、「子育ては尊い仕事事業」として、試食・意見交換会と、ちょっと先輩お母さんからの支援という活動が行われています。

第2子・3子を育てているお母さんが、新米ママと子どもに関わり遊んだり、アドバイスしたりしました。はじめは、そんなことができるかしら・・・??と言っていた先輩お母さんのまわりには、3～4人の子が、スカートをはいて、エプロンしてお人形をおんぶして、お買い物ごっこをしている子どもの笑顔は、とってもステキでした。第1子のママは、「こうしてあそべないんです」と相談し始めました。(とてもいい雰囲気・・・)「あそんであげよう!!なんて、かまえないけども、私が少し、視線を下げ遊ぶと、子どもってあつまりますよー」と答えてくれました。こうして、横につながっていく関係作りが、いいですね。

協力してくれたみなさん、ありがとうございました。

・・・せり・・・

## まほろばの部屋から

### 「垣根のない」子育て支援を

「他の子どもたちといっしょに遊ぶことが難しいな」

「ことばがなかなか増えないな」

とわが子の育ちに不安を感じているお母さんがお子さんを連れて遊びにくる教室「ころころ」を月に1回開いていました。お教室といっても、もちろん、かた苦しきゼロです。

その最後の回の終わりに、お母さんの1人が涙を浮かべてこんな話をしてくれました。

「子どもの育ちに不安を感じるが、園庭開放などについてもわが子が何をしているのかが気になり自分の話をすることができない。親子教室も子どもと一緒にやらないといけないし。ここは、自分の不安をざっくばらんに話すことができよかったです。」

子育てに不安を感じないお母さんは少ないと思います。そのために子育て支援の場所が増えているのだと思います。

ただ、子どもがお友達とうまくあそぶことができないと思うと、既存の子育て支援の場所を利用することをためらうお母さんがいるのです。

垣根のない子育て支援とは何かを深く考える機会となりました。

(あきこ)

## 友達と見る絵本

おおきくなるっていうことは / 中川ひろたか・文 村上康成・絵 童心社

おおきくなるっていうことは、どんなこと？

ようふくがちいさくなるってこと。あたらしいはがはえてくるってこと……。

この絵本の中には、おおきくなるっていうことは、どんなことか、たくさんつまっています。

ページをめくって読むたびに、

「そうそう!」「あー! うんうん!」

わかるわかるというように、うなずいたり、にっこり笑ったり。

おおきくなった ぼく・わたし を、おもいうかべているんだね。

ひとつおおきくなるみんな、おめでとう!

(あづさ)